

初級修了者の終助詞習得における問題点

マルク・ブロック大学

岩内佳代子

1. はじめに

終助詞の特徴として「モダリティに直接かかわるので、同じ現象を表す文でも文脈により選択が可能である。」「性別の制限がある¹。」「動詞や助動詞にもつくので、その形態も問題になる。」の三点が挙げられると思う。例えば、庭に子供がいる。子供が庭で遊ぶ。の二文を見ると、同じ場所を表す助詞でも「に」は存在動詞と共起して子供が存在する場所を表し、「で」は動作動詞と共起して、子供が遊ぶという動作を行う場所をしめす。このように格助詞を見た場合共起する動詞の種類により、使われる助詞が決まっている。が、終助詞の機能を見ると、庭に子供がいるね。庭に子供がいるよ。の二文では同じ現象を表す文でも発話者の表現したい気持ちによって終助詞を選択する事が可能である。また、庭に子供がいるわよ。庭に子供がいるぞ。の2文を見ると、前文は女性、後文は男性の発話であると言う事は明らかである。また、形態面を見ると例えば「わ」の場合「静かだわ」は可能であるが、「静かわ」は誤用である一方「静かだよ」「静かよ」は両方が可能である。以上のような終助詞の特徴をふまえ、本稿では、フランス人学生の初級修了者を対象にどのような終助詞取得の問題があるのかを、同年代の母語話者の使う終助詞と比べながら明らかにしたい。

2. 研究方法

2-1. 調査の方法

2-1-1. 調査の対象

被験者はフランスにあるマルク・ブロック大学の2年生16名（男10名 女6名）で、調査時の日本語学習時間は160時間である。また、フランスに短期滞在中の日本人学生6人（女3人、男3人）にも事情を話し同じ作業をしてもらい、学習者との比較に用いた。

2-1-2. データの採取方法

「ですます体」で書かれた以下の会話文を与え、これを若い男女、親しい同僚の会話に書き直すという課題を与えた。学生が書き直した文を分析する。

課題文

この課題文はみんなの日本語聴解タスク20課の親しい男女の会話を同僚と「ですます体」に書き直したものである²。この会話には動詞文として、質問文、説明文、断り文、勧誘文、というように異なるの機能を持つ文が入っているので、短い会話ではあるが終助詞の習得状況が総合的に分析できると思い選んだ。以下が課題文である。

¹ 文末表現の男女差については研究が進んでおり、女性の「わ」の使用は少なくなっているという研究結果も多いが筆者は現在の段階ではまだ文末表現の男女差を日本語の特徴の一つとして教えるべきであると思う。

² 「ですます体」の課題文を選んだのは、この形に学生が慣れているので、課題をこなすのに学生に理解しやすく負担にならないという便宜上の理由による。

- A1 鈴木さん、ビデオの使い方がわかりますか。
 B2 新しいビデオですか。
 B3 すみません。新しいのは知りません。
 A4 そうですか。
 A5 じゃ、いいです。
 A6 高橋君。ちょっとすみません。
 A7 ビデオの使い方を教えてください。
 C8 いいですよ。
 C9 でも、いつ使いますか。
 A10 四月だし、桜の季節だし、日曜日にお花見に行きます。
 A11 その時に使います。
 A12 よかったら一緒に行きませんか。
 A13 昼ご飯は私が持って行きます。
 C14 日曜日はちょっと行けません。
 (A 女 B 男 C 男)

3. 手続き

文ごとに学生全員の終助詞の使用例をいれた表を作成しクラス全体の文別誤用傾向を見る。例えば「B2 新しいビデオですか。B3 すみません。新しいのは知りません。」の文例に関して言えば各学生が以下のように書き直している。以下学生の個人名を使わず番号で表す。

表 1 各学生の B3 文例

新しいビデオですか。すみません。知りません。	
新しいビデオですか。ごめん。新しいのは知らない。	1 男
新しいビデオ。すみません。新しいのは知らないな。	2 女
新しいビデオ。ごめん。新しいのは知らないよ。	3 女
新しいビデオだかね。すみません。新しいのは知らないよ。	4 女
新しいビデオ？ごめん。新しいのは知らない。	5 男
新しいビデオだ？ごめん。新しいのは知らないよ。	6 男
新しいビデオか。ごめん。新しいのは知らないよ。	7 男
新しいビデオ？すまん。新しいの知らないよ。	8 男
新しいビデオの？すまない。新しいの知ってないな。	9 女
新しいビデオか。ごめん。新しいのは知らないよ。	10 男
新しいビデオ？ごめん。新しいのは知らない。	11 女
新しいビデオ。ごめん。新しいのは知らない。	12 男
新しいビデオ。ごめんなさい。新しいのは知らない。	13 男
新しいビデオのか。ご免。新しいのは知らない。	14 男
新しいビデオだ？新しいのは知らない。	15 女

新しいビデオですか。すみません。新しいのは知りませんや。	16 男
------------------------------	------

また、各学生の作成した会話全文の表も作成し、個人的な誤用を見る。表2は、男1が書き直した会話全文である。

表2 一学生の全文例

田中君ビデオの使い方がわかるか。
新しいビデオですか。
ごめん。
新しいのは知らない。
そうか。
じゃ、いいだ。
高橋君、ちょっとすまない。
ビデオの使い方を教えてください。お願い。
いいだよ。
でも、いつビデオを使うか。
4月だし、桜の季節だし、日曜日に花見に行く。
その時に使う。
よかったら、いっしょに行かないか。
昼ごはんは私がもって行く。
日曜日はちょっと行かない

4. 分析結果と考察

ここで、前述した終助詞の三つの特徴に関して、特徴別の誤用数を示したのが表3である。

表3 特徴別誤用タイプ

	性別	形態	文脈
N (A NA) + 終助詞	2	3	4
A I + 終助詞	1	5	3
V + 終助詞	6	3	1 2
計	9	1 1	1 9

表中Nは名詞、A NAはな形容詞、A Iはい形容詞、Vは動詞を表す。

この表でも分かるとおり、文脈の誤用が一番多い。以下特徴別の誤用を詳しく見て行きたい。

4-1. 性別

4-1-1. 女性の発話における男性表現の使用

- (1) A1 鈴木さん、ビデオの使い方がわかりますか。→ビデオの使い方わかるか。(男1)
- (2) A12 よかったら一緒に行きませんか。→行かないか。(男1、女11)

普通体に「か」をつける質問文は男性の表現である。女性の場合は普通体で上昇イントネーションの質問文にするべきである。

4-1-2. 男性の発話における女性用終助詞の使用

形容詞+終助詞のなかで、これが男性の発話であるにもかかわらず、女性の終助詞「わ」の誤用が観察された。

(3) C8 いいですよ。→いいわ。(女9)

また、これが書いたデータであるために以下の例のように同音の「わ」と「は」の混同が見られた。

(4) A10 四月だし、桜の季節だし、日曜日にお花見に行きます。→4月だし、桜の季節だし、日曜日に花見に行くは。(男10)

この誤用は、音では気がつかないかもしれないが、メールなど話言葉を書く場合もあるので、気をつけたい。

4-2. 形態の誤用

以下に見られるように、名詞の質問文を作る場合、助動詞「だ」を除かないで「名詞」+「だ」+「か」と続けるケースがある。これは、終助詞「ね」の場合は、「ビデオだね」「そうだね」のように「だ」との共起が可能であることからの混同だと思われる。

(5) B2 新しいビデオですか。→新しいビデオだかね。(女4)、新しいビデオだ?(男6)

(6) A4 そうですか。→そうだか。(女4)

また、い形容詞は助動詞「だ」が介入せず直接終助詞「よ」に接続するが、「だ」の介入がある誤用が見られる。これは、名詞、な形容詞と終助詞「よ」は、助動詞「だ」が介入してもしなくても両方も可能である。例えばな形容詞の場合「静かだよ」も「静かよ」も可能である。このことからくる混同だと思われる。

(7) C8 いいですよ。→いいだよ。(男1)(男7)

一方「だ」と共起しない「わ」にも「だ」を残す誤用が見られる。

(8) A5 じゃ、いいです。→じゃ、いいだわ。(男7)

以上の混同は、「だ」との共起が可能な場合と不可能な場合を表で示して学生に提示したらよかったと反省している。

4-3. 文脈による誤用

前出の表からもわかるように、文脈に関する誤用が一番多かった。

4-3-1. 「質問文」について

会話中に2つの質問文がある。一つ目は会話の初頭「A1 鈴木さん、ビデオの使い方がわかりますか。」。二つ目は会話の真ん中でcの発話2文目「C8 いいですよ。C9 でも、いつ使いますか。」である。この二つの質問文の文末表現を比較したものが次の表4である。

表4 質問文別文末表現の比較

終助詞	F女		F男		F計		J女		J男		J計	
無	3	2	3	5	6	7	3	0	3	0	6	0
の	1	2	1	0	2	2	0	3	0	1	0	4
か	2	1	3	2	5	3	0	0	0	0	0	0
のか	0	0	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0
ね	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
だよ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
丁寧か	0	0	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0

表中の終助詞の区分で「無」は終助詞を使わない普通体、「丁寧か」はですます体に「か」をつけた形をあらわす（以下同じ）。また、各ます中、左の数字はA1の文末表現数、右の数字はC9の文末表現数を表す。例えばA1 鈴木さん、ビデオの使い方がわかりますか。を「わかる」とした者はF女学生で3人、F男学生で3人、計6人。C9でも、いつ使いますか。を「いつ使う」としたのはF女学生で2人、F男学生で5人、計7人ということである。

この表からもわかるとおり、F学生はA1もC9も終助詞無しの普通体「ビデオの使い方がわかる」6人と「いつ使う」7人がもっとも多かった。しかし、J学生の場合はA1は「ビデオの使い方がわかる」が最多で6人に対しC9は「いつ使うの」が一番多かった。J学生によると特にC9は終助詞「の」をつけたほうが文脈上自然ということだった。このように質問文という同じ種類の文でも、文脈により違いを出すのが日本人学生である。これは、大島による「イントネーションの質問文は単に自体が成立したかをたずねるときに使われ、『の』文は、出来事が成立したのは既に了解済みで、その出来事の成立に関係する一部の情報にフォーカスを当てて尋ねる場合であろう（一部省略）」（2000p. 100）ということからも裏づけられる。

またA1に関して言えば、F学生の「ビデオの使い方がわかるか」も5人、「ビデオの使い方がわかるのか」が1人あったが、まずこれは女性の発話という観点から誤用である。また男性の発話だとしてもこれは相手の能力を疑うとも取られる危険性をはらんでおり、円滑なコミュニケーションの観点から言えば使用に際し注意が必要な文の一つであろう。

4-3-2. 「文のつなぎ」について

もう一点注目したいのは同話者による複数の文の発話である。例えば以下の4文は話者Aの発話である。

A10 四月だし、桜の季節だし、日曜日にお花見に行きます。

A11 その時に使います。

A12 よかったら一緒に行きませんか。

表5は二文のつなぎに使われる終助詞を示したものである。

表5 三文のつなぎに使われる終助詞

終助詞	F女		F男		F計		J女		J男		J計	
無	5	3	6	5	11	8	0	0	0	0	0	0
ね	0	3	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
よ	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
わ	1	0	1	2	2	2	0	0	0	0	0	0
の	0	0	0	0	0	0	1	2	1	2	2	4
のよ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
のだ	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
丁寧体	0	0	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0
けど	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	4	0

表中、左の数字はA10の文末表現数、右の数字はA11の文末表現数である。例えば、A10 四月だし、桜の季節だし、日曜日にお花見に行きます。→「お花見に行く」がF女学生で5人、F男学生で6人、計11人いた。そして、A11 その時に使います。→「使う」がF女学生で3人、F男学生で5人で、計8人あることを示す。

このように、F学生は「A10 お花見に行く」(11人)、「A11 その時に使う」(8人)とどちらも終助詞を使わない2文を並べるだけの例が一番多かったのに対し、J学生は「A10 お花見に行く(んだ)けど」(4人)、「A11 その時に使うの」(4人)という結果がでた。コミュニケーションという観点から見た場合やはり三文の間につなぎの終助詞が入るほうが自然だと思う。石川(2005)も、OPIデータの分析から超級者に比べて日本語能力の低い者が「けど」の表す心的態度を十分理解し発話していないと指摘している。この「けど」は、みんなの日本語20課で導入されているし、発話を円滑なものにするという運用面からの目的で初級から指導したい。また、A11の終助詞「の」はある事柄の事情や根拠などを説明する(基礎日本語学習辞典 p. 546)機能があるが、質問文につく「の」に比べてこの説明機能は初級教科書に出ていないように思われる。2つの違う「の」の機能をきちんと教えるべきである。

4-3-3. 「断り文」について

表6 返答(断り文)に使われる終助詞

終助詞	F女	F男	F計	J女	J男	J計
無	2	5	7	0	0	0
よ	2	4	6	0	1	1
な	2	0	2	2	2	4
や	0	0	0	1	0	1

もう一点は終助詞「や」の欠如である。これは、基礎日本語学習辞典1989年版には載っていないし、例えば[みんなの日本語]「日本語初歩」などの初級教科書に出てこない。がJ学生は使っているし、F学生も聞いた事はあると言う。これはJ学生によるとまた私の観察からも現在では若い女性もかなり使っているが初級学習者には男性の終助詞として教えるのが無難であろう。特にこの「C14 日曜

日はちょっと行けません。」は断りの文であるためコミュニケーション上の配慮が必要であるということからも、終助詞無し of 普通体は誤用と言える。また、「よ」を断り文につけるときの相手との人間関係や状況を踏まえて使わないとリスクが伴う。このような細かい指示も学生にする必要があると思う。

5. まとめにかえて

ここでは普通体での終助詞を中心とする文末表現について初級修了者の習得状況をみてきた。従来の日本語教育をみると、文法面の形式、一助詞に関して言えば格助詞、係助詞などの正しい習得に重点がおかれがちで運用面の実態把握や指導法への関心が薄いように思われる。また OPI などの影響により、「普通文体を適切にこなせるのは超級者」という定義が普及し、習得は難しいという意識が先立ちすぎているようにも見受けられる。しかし、終助詞を伴う文末表現に関して言えば、「不適切な使用からコミュニケーション上支障をきたす危険もある」という対人関係にかかわる言語運用能力の重要な問題でもある」ということを教師も学生ももっと認識するべきである。教師もこの重要性をもっと学習者に初級のうちから意識させる必要があると思う。それとともに学習者の終助詞習得状況を把握し、それぞれの欠点を補うような授業や教材作りに工夫が必要であろう。また、教科書だけの学習には限りがあるし日頃日本語に接する機会の少ないフランスに住んでいる学習者に対して、教師が学習者と同年代の母語話者との交流の場を積極的に持つことも習得の助けになると思う。今回は時間の関係でできなかったが、学習者がどのように終助詞の機能を捕らえているかというアンケートも試み、その結果と今回の調査結果とを分析して得られたもう少し詳しい運用面の実態把握を行い今後の授業運営に反映させていきたいと思っている。

参考文献

- 石川智 2005 「文末表現『けど』のポライトネス—OPI から見た母語話者と学習者の使用状況—」『言語教育の新展開』349-364 ひつじ書房
- 大島弘子 2000 「普通会話の問題 —質問文を中心に—」『ヨーロッパ日本語教育』ヨーロッパ日本語教師会 p. 94-102
- 尾崎喜光 1997 「女性専用の文末形式のいま」『女性のことば—職場編』現代日本語研究会編 ひつじ書房 33-58
- 益岡隆志・田窪行則 1992 『基礎日本語文法 改訂版』くろしお出版
- 国際交流基金 1989 「基礎日本語学習辞典 英語版」
- IDE Sachiko and Megumi YOSHIDA 1999 “Sociolinguistics : Honorifics and Gender Differences” In Natsuko Tsujimura (Ed) *The Handbook of Japanese Linguistics*. Oxford : Blackwell Publishing
- IWAUCHI Kayoko 2006 *L’agression verbale en japonais*, Thèse de doctorat de Sciences du langage, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales
- MAKINO Seiichi and Michio TSUTSUI 1989 *A dictionary of Basic Japanese Grammar*, Tokyo The Japan Times
- OSHIMA Hiroko 1994 *Principes conversationnels du japonais parlé*, Thèse de doctorat de linguistique générale et appliquée, Université Paris V